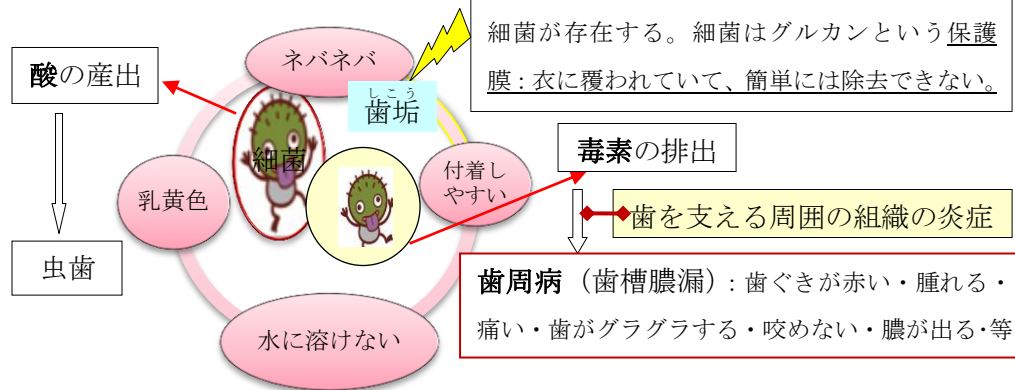


✚ ご挨拶

木々をわたる風にも、そこはかたなく初夏の気配を感じる頃となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？季節の変わり目に寒冷前線が通過すると、思いがけず肌寒く感じます。経験上こんな時に、「詰め物が取れた・歯が疼く・・・」等といった歯の症状も出やすくなります。どうぞお身体を大切にお過ごし下さいますようお願い申し上げます。

✚ 防御機構

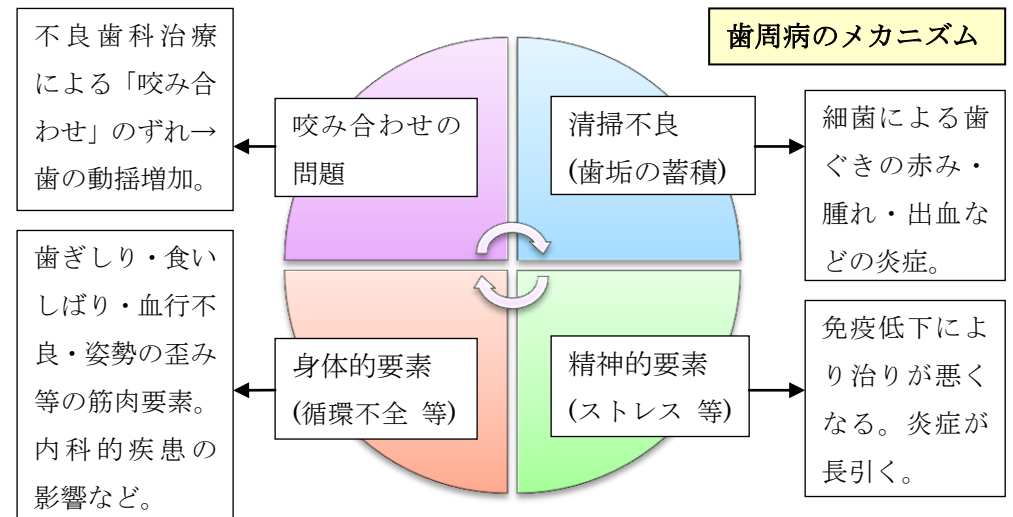
四十肩・五十肩があるように、歯にも「50・60の壁」があると感じています。「虫歯になったことが無い・歯医者にも行ったことがない」と自慢される方が特に陥りやすい現象で、「歯周病（歯槽膿漏）」が重症化した年齢層を比喻した表現です。社会での責任が高まり、不規則な生活やストレスを受けることが多くなる年代になって初めて自覚症状があり、歯科医院に駆け込んだ時には手遅れ状態。歯の喪失へとつながるケースです。



この「歯周病」の恐ろしいところは、発症していても無自覚なまま暮らしている方が極めて多いことです。もしかしたら、ちょっとした違和感があっても気が付かないフリをしている、と言った方が正しいかもしれません。命の危険という観点からは優先順位が低いだけに、治療は後回しにされてしまいがちなところにこの病の悲劇があります。

口の中は多種多様な細菌群が生息しています。歯の二大喪失原因である「虫歯」と「歯周病」は同じ口の中にあっても、成因とその作用は違います。第一の予防策は目的に合わせた「歯磨き」なのですが、これだけでは実際良くはなりません。特に「歯周病」に関しては、様々な要素（①清掃性 ②精神的 ③身体的 ④咬み合わせ）からのアプローチをしなければならないのです。「歯磨きを頑張っても、全然良くならない」と嘆かれる方が多くいらっしゃるのも当然のことなのです。

「歯周病」は、様々な要因が複合的に絡み合って進行していきます。精神的な落ち込みやストレスなどがあれば（病は気から）、免疫力の低下につながります。それに身体的な条件の悪さが加われば、ますます抵抗力は落ちていくでしょう。



「身体の**防御機構が不全になるから**、歯周病が発生する」と考えれば、生活を見直すことで、病の改善が見込めるはずです。いかに「体調の維持に心を配るか」が大事なのです。私達の身体は、実に様々なことを事前に知らせてくれています。

早速、鏡の前でご自身のお口の中を確かめてみませんか？最近、無理を重ねていませんか？